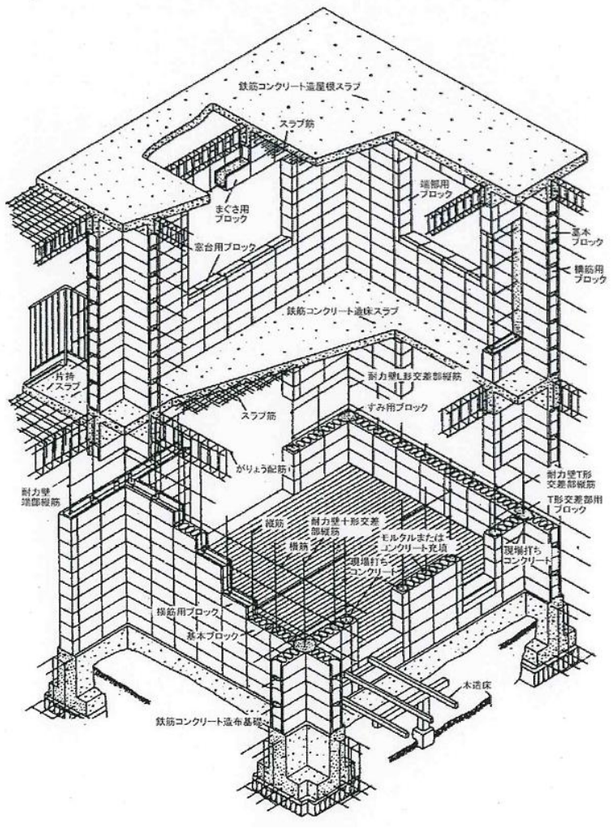
補強コンクリートブロック造

補強コンクリートブロック造とは
補強コンクリートブロック造は、補強組積造の空洞コンクリートブロック単体を目地モルタルにより組積し、空洞部に配置した鉄筋と充填コンクリートによって補強された壁体及び鉄筋コンクリート造の布基礎・臥梁※・スラブによって構成された壁式構造である。なお、本構造は建築基準法施行令第62 条の2 及び4～7 において、耐力壁、臥梁、目地及び空洞部の構造等について規定されている。
※臥梁（がりょう）：組積造・コンクリートブロック造などで設けられる梁のことをいう。

主な特徴
①耐震性・耐火性に優れている。②気密性が高く、耐久性に優れている③空洞部が多いため断熱性に優れ、工期が短いのが特徴です。鉄筋コンクリート造に比べ構造的な制約が多いため、プランやデザイン形状の自由度があまりありませんが小規模な住宅には向いています。

参考図　補強コンクリートブロック造の例（引用：構造用教材［日本建築学会］）



駆体工事の主な流れ！

①基礎の配筋

②基礎のコンクリート打設型枠解体後

③壁のブロック積

④壁の角や開口部廻り等流し込み部分の配筋

④流し込み部分の型枠

⑤スラブの配筋

⑥スラブのコンクリート打設後養

⑦内部の梁や耐力壁

⑧流し込み部分の型枠の解体

⑨左官仕上

⑩塗装後完成！

有限会社総合計画